



～第2号～ 田植え後・中干し編

6月の平均気温は高い確率80%です。

また、梅雨入り早々に梅雨前線が停滞し、

大雨災害のリスクが高まる可能性があります。

豪雨前は、排水路の点検を行ってください。

豪雨後は、速やかな排水に努め、できるだけ葉を水面に出すようにしてください。

1.田植え後の水管理

◎藻の発生について

藻が繁茂すると水温、地温が上昇せず生育が遅れることができます。

《対策》

- ①軽く田干しする（1～2日ほど落水）。
- ②藻類に登録のある除草剤を散布する。

◎雑草管理

- ①粒剤：散布時の水深を3～5cmとします。

- ②フロアブル剤、顆粒水和剤、ジャンボ剤、少量拡散型粒剤（豆つぶ、FG剤など）：散布時の水深は5～7cmとしましょう。

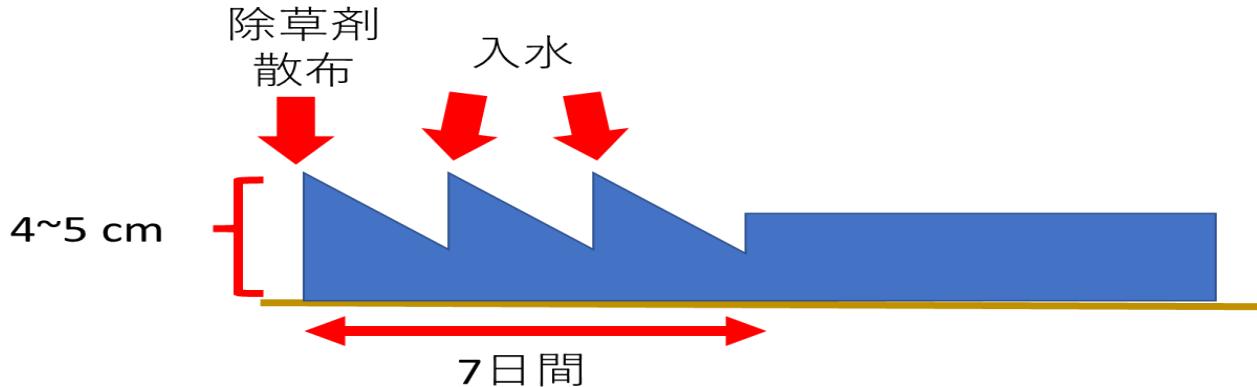
※ジャンボタニシがいるほ場では、水深は4cm以下にしてください

◎除草剤散布後の水管理

- ①除草剤施用後の止水期間は、3～4日以上で除草効果が高い。

- ②田面が露出していなければ、入水を控える。

- ③水持ちが悪い水田は、少しずつ入水を行う。



2. 中干し

◎中干しの効果

- ①無効分げつの発生を抑制する。
- ②地中に酸素を補給し、根腐れを防ぐ。
- ③地中の有害ガスを抜く。
- ④土を固め、機械が入るようにする。

◎干しすぎ注意！

大きなひびが入ったり、表面が白く乾いている場合は干しすぎのため、走り水をする。

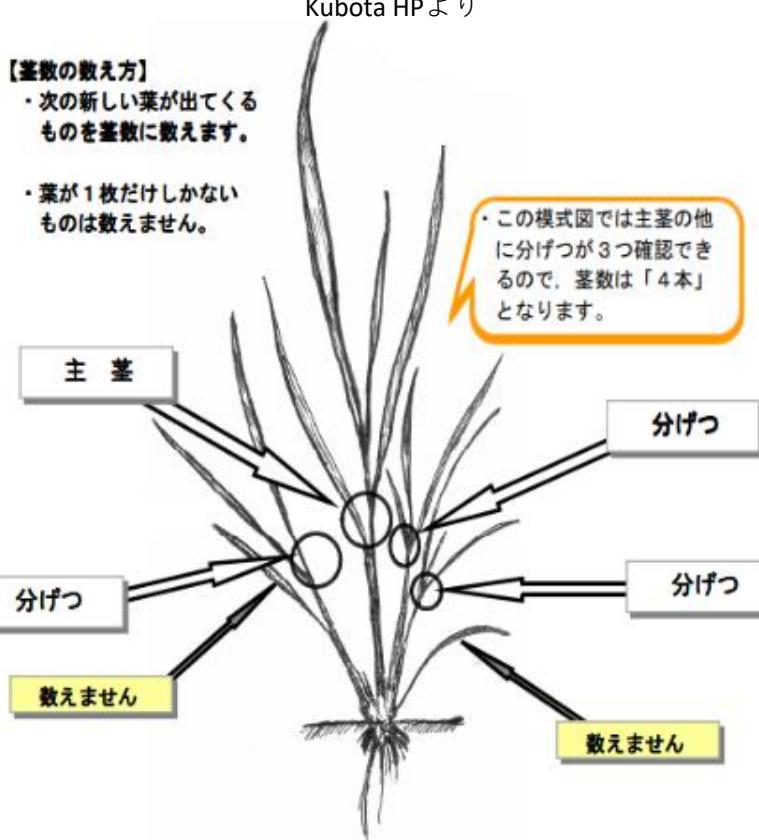


干しすぎた田んぼ

Kubota HPより

【茎数の数え方】

- ・次の新しい葉が出てくるものを茎数に数えます。
- ・葉が1枚だけしかないものは数えません。



◎中干しの適期開始について
穂にならない茎を減らすため、
田植え後1か月までを目安に
中干しを行う。

中干し開始時期：目標穂数の
「80%」を確保した時期

例) ヒノヒカリ・きぬむすめ
約20本/株

※高温年は、茎数が増える
スピードが早い可能性あり

◎中干しの終了時期について
出穂1か月前までに終了する。

◎中干し後の水管理

- ①中干し後すぐに湛水せず、
さっと走り水をし、
水稻を水に慣らす。
- ②高温時は、湛水せず
間断かん水（自然減水し、
田面が見えるようになったら
入水）を行う。